

こう変わる 授業・教科書

～新課程を迎えて～

1. 中学校はどう変わった？

4月より中学校の新指導要領が施行されています。外国語は単位数が3単位から4単位になりました。

では中学校の教科書はどのように変わっているのでしょうか。6社から発行されているので、出版社によって対応は少しずつ異なりますが、まとめると以下のような変化が見られます。

① 小学校の外国語活動との接続

1年生の冒頭に、小学校の外国語活動を復習する warm-up のページが割かれています。

② ページの増大

前課程と比較して、ページ数は約1割から3割増になっています。本課のレッスン数は変わらないものが多いですが、Reading の題材が増えたり、巻末の付録(文法のまとめや語彙を補う picture dictionary のようなもの)が充実したりしています。

③ 文章量の増大

本文が長くなっているもの、間に読解題材が挟まる企画のものがあります。

④ 多様な活動・表現

言語活動は、4技能をまんべんなく使うように補強され、それらの活動を行うための表現・語彙が現行より豊富に提示されています。

2. 高等学校はどう変わる？

ここでは、高等学校の指導要領の詳細は省略し、どういった点に注目すべきかに触れたいと思います。

まず、平成25年度の高校1年生は、新指導要領下では1年しか学習していないことに注意が必要です。中学の3年間を通して新指導要領の教科書で学んで高校生となるのは平成27年度生からです。

また、中学校の教科書は、取捨選択できる構成要素が増えたので、例えば、「話す」「聞く」に重点を置いて学習した生徒と「読む」に重点を置いて学習した生徒では、高校に進んできたときに習得してい

る内容に差がある可能性があります。

さらに、中学校における読解量・語彙量増や、英語での言語活動を行うことにより、高等学校では実質的に学習内容が増えます。しかしながら、外国語の単位数は同程度と予想されますので、密度の濃い学習が必要になると思われます。

3. 数研出版はどう変える？

このような新指導要領の変化を鑑みて、小社では *POLESTAR*、*BIG DIPPER*、*COMET* の3シリーズの教科書を発行いたします。

上記で触れました「繰り返し学習」「英語での活動」「スムーズな授業展開」などの必要性を考慮し、先生方にお使いいただきやすく、学習者の方々の理解を深める企画・構成を検討し、それぞれの特徴を打ち出した3シリーズです。

POLESTAR シリーズ

コミュニケーション英語・英語表現ともに、格調高く、authentic な内容をそろえ、英語での活動のための素材を十分に用意しています。入試への備えも万全です。

BIG DIPPER シリーズ

コミュニケーション英語・英語表現ともに、中学の復習～高校英語の基礎を定着させる構成です。その課の中での繰り返し学習で英語での活動ができる構成です。

COMET シリーズ

本文を用いた繰り返し学習の中で、中学の復習を中心に、基礎的な英語力を定着させる新シリーズです。

いずれのシリーズも、デジタル教科書(→p.12)、Teacher's Book など、多様な活動を実現するさまざまな周辺教材をそろえております。

何卒ご高配のほどよろしくお願い申し上げます。